

第4節 目標値の設定

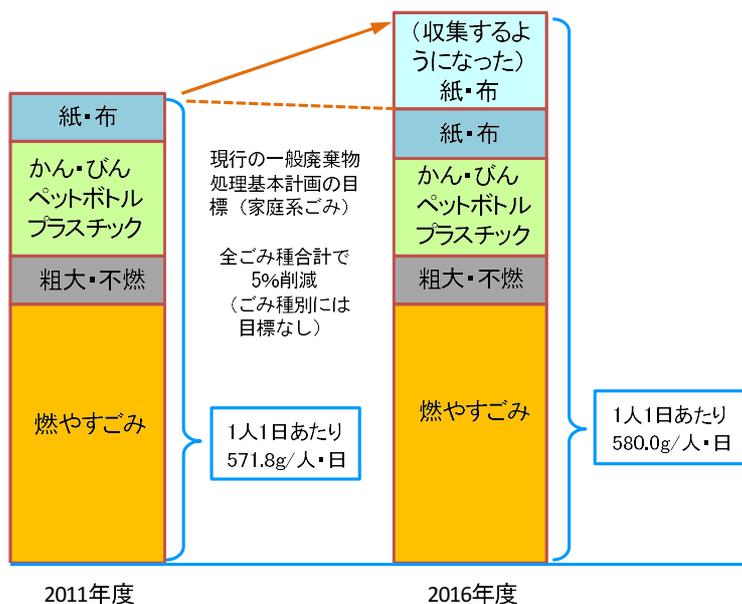
1 基準年度の設定

基準年を宝塚市新ごみ処理施設整備基本計画（原案）に準じて 2015 年度とする。

2 目標値の設定

これまでの計画では、減量目標を「発生抑制に関する目標値」（資源ごみを含む全ごみ種の合計量）として定めていた。しかしその後、「古紙回収業者が紙・布を直接回収し資源化する方式」を市域の 3 分の 1 世帯を対象として導入したことにより、持ち去りが抑制され、2011 年度から市が収集できていなかったごみを収集するようになったことで、家庭系の「全ごみ量」の対象が変わってきている。

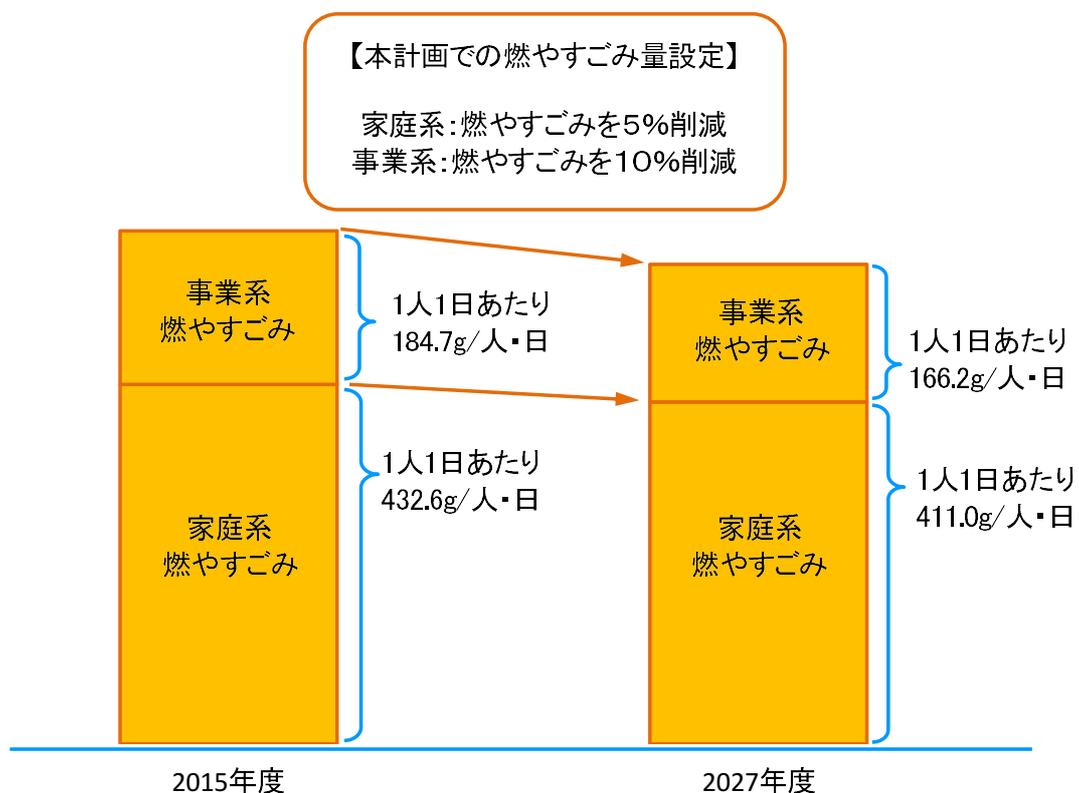
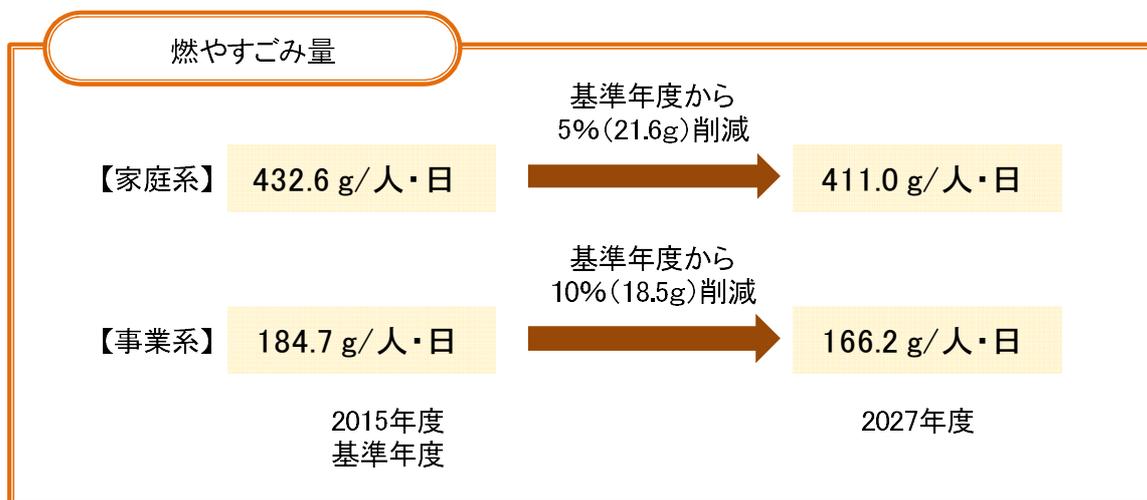
また、資源ごみは、一部量販店などでも回収されており市として処理する対象としては、その増減を直接ごみの増減と結びつけるのは困難であると考えている。



本計画において、これまで、より現状に近い 2016 年度の実績について検証してきたが、その傾向は、基準年である 2015 年度と同様である。そのため、基準年である 2015 年度の実績を踏まえて「燃やすごみ」の量を設定することとし、目標値については、次のように定める。

(1) 燃やすごみ量の設定

削減率は現行の旧計画の考え方に継承して、家庭系は5%削減、事業系は10%削減とし、推計値については新ごみ処理施設整備基本計画（原案）を踏まえるものとする。



(2) 予測結果と目標値の関係

年度と目標値については表3-3に、予測値と目標値の関係については図3-2に示す。

表3-3 家庭系・事業系燃やすごみ量及び焼却処理量における年度と目標値

区分 \ 年度	基準年度 2015年実績	中間目標年度 2022年	目標年度 2027年
家庭系 燃やすごみ	35,568t/年	34,507t/年	33,824t/年
事業系 燃やすごみ	15,188t/年	14,250t/年	13,683t/年
焼却処理量	54,982t/年	53,068t/年	51,904t/年

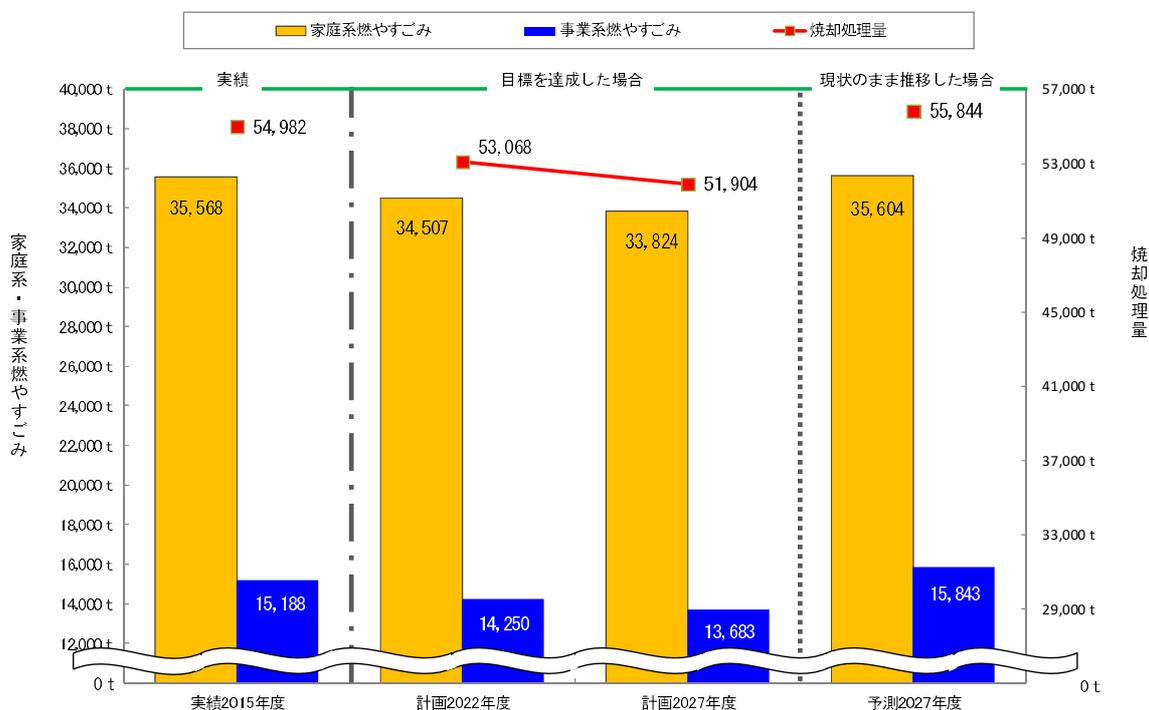


図3-2 焼却処理量における予測結果と目標値の関係